

万葉びとは  
お酒が好きだった



讃酒 吉井東人作 奈良県立万葉文化館蔵

佐々木  
政一

## 讚酒

モチーフとなった万葉歌

駿なき 物を思はずは

一杯の 濁れる酒を 飲むべくあるらし

(大伴旅人 卷三十三三三八)

## 口語訳

考えても仕方ない物思いをしないで、

一杯の濁り酒を飲むのがよいらしい。

## 解説

人生の諦観を歌った大伴旅人の歌。この時代、神事や行事に付帯した宴席でしか、一般的には酒を飲む習慣はなかった。したがって、独り飲む酒はきわめて異例のことと見なければならぬ。旅人は、中国の文人の風にならったのであった。

## 画家のことは

大伴旅人の讚酒歌十三首の冒頭歌で序論をなす三三八番を選ばせていただきました。

当初この歌から、世をのがれひっそりと酒を愛する風流人としての旅人をイメージしましたが、研究を進めるうち「駿なき物を思はずは」と云う表現の背後に、知識人としての苦悩と最愛の妻を失った所在なさ、その苦痛からの逃避に酒を求めた自棄の意味が込められていることを窺い知ることが出来ました。

作画にあたりまず旅人の風貌に誇り高き氏族の首長、大政治家、武人、文人を感じさせなければなりません。住居は高級官僚のものらしく、杯と酒瓶は陶器でなくベルシヤ風のワイングラスのよくな正倉院の宝物を使い、外を明るく小鳥のさえずりを感じさせ、室内は暗く人物を逆光にすることで、晩年孤独な旅人の内容世界が表現出来ればと思いました。

吉井東人

## お酒（日本酒）の造り方

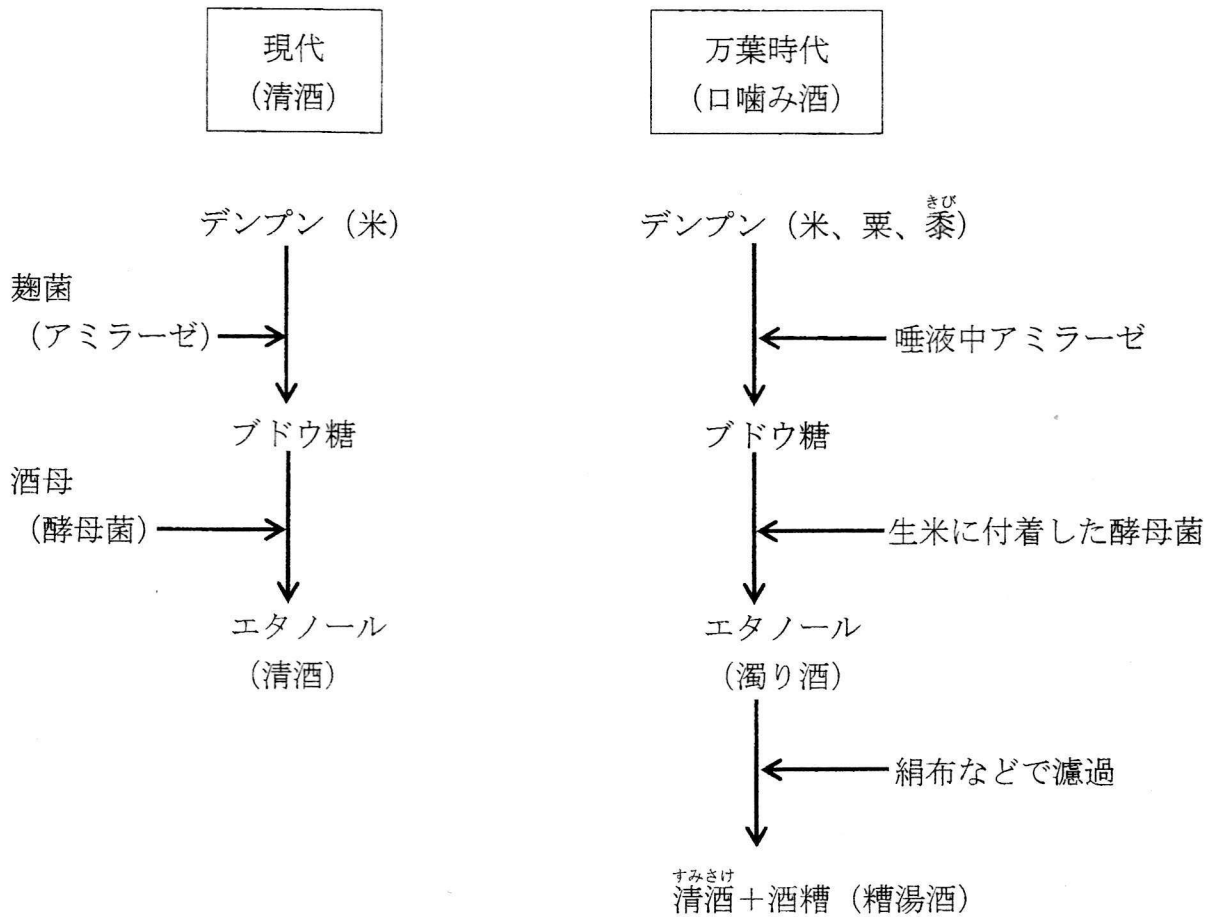


表1・2 奈良朝時代の酒の価格（1升当り）

| 酒          | 価格<br>(文) | 米に換算<br>(合) | 備考                      |
|------------|-----------|-------------|-------------------------|
| すみさけ<br>清酒 |           |             |                         |
| 浄酒         | 17        | 24          | 絹などの篩料，糟垂袋<br>を用いて濾過した酒 |
| 濁酒         |           |             |                         |
| 白酒         | 10        | 14          | どぶろく様のものか               |
| 粉酒         | 7         | 10          | どぶろく様のものか               |
| 古酒         | 6         | 9           | 旧酒といった。新酒に<br>対する用語     |
| 酒          | 2         | 3           | 雑工料として支払われ<br>たもの       |

当時（天平宝字6年、762年）の貨幣価値 1文＝約700円  
 当時の1升は現在の4合に相当する